

情 報 公 開 文 書

研究の名称	腹腔鏡下胃切除術での細径リトラクターを用いた肝挙上の安全性と有効性の検討
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学
研究責任者	消化器・腫瘍・総合外科 教授 藤井努
研究の概要	【研究対象者】 2016 年 1 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までに富山大学附属病院で腹腔鏡下胃切除術（幽門側胃切除術または胃全摘術）を施行された症例。 【研究の目的・意義】 腹腔内では肝臓と胃が広い範囲で重なっています。腹腔鏡下胃切除術では小さなカメラ（腹腔鏡）と小さな手術器具（鉗子）を用いて、内臓脂肪や胃の血管、胃そのものを切離する必要があります。限られた腹腔内というスペースのなかでこれらの操作を行うため、肝臓をきちんと避ける必要があります。この操作を圧排と呼び、肝臓を圧排する手術器具がリバーリトラクターです。これまで当科では 5mm の屈曲型リトラクターを用いて肝臓の圧排操作を行ってきました。2017 年より 3mm のより細い屈曲型リトラクターを導入しています。これによりリトラクターを挿入するための創を小さくすることがきるだけでなく、より小さなスペースで器具を曲げて肝臓を圧排される面を展開することができるようになりました。本研究では 3mm の細径リトラクターの有効性と安全性を検証することで、より安全な腹腔鏡下胃切除術の確立を目指します。 この研究は研究責任者が所属する富山大学倫理委員会の承認を得た臨床研究として行われ、用いられる情報は富山大学に保管されます。 【研究の方法】 富山大学附属病院で腹腔鏡下胃切除術を施行された症例を対象に、医療記録を基にした匿名化データを用いた後ろ向き観察研究 【研究期間】 2016 年 1 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日 【研究結果の公表の方法】 学会発表および学術雑誌への掲載による公表 本研究の研究計画書などの詳しい情報を知りたい方は、相談窓口までお申し出ください。
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 （他機関への提供の有無）	肝挙上に要した時間 肝外側区域体積 肝外側区域最大径 術後肝機能（術後第 1, 3, 5, 7 病日） 患者背景（身体所見、基礎疾患、生理機能検査所見、術前診断） 臨床病理学的所見（TMN 分類など） 手術因子（術式、出血量、手術時間、術中合併症） 術後合併症（縫合不全の有無、術後瘝液漏の有無など） ドレーン中の腹水 AMY

	入院期間、術後入院期間 退院後 30 日以内再入院 予後（全生存期間、無再発生存期間、死因など）
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院 消化器・腫瘍・総合外科（第二外科） 教授 藤井 努
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学附属病院 消化器・腫瘍・総合外科（第二外科） 教授 藤井 努
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7331 FAX 076-434-5043 担当者所属・氏名 富山大学附属病院 消化器・腫瘍・総合外科（第二外科） 助教 平野勝久